

# 魔法のプロジェクト 2022 活動報告書

報告者氏名：藤原 佳美 所属：東京都立八王子西特別支援学校 記録日：令和4年2月25日  
キーワード：行動問題への対応／コミュニケーション方法の獲得と選択

## 【対象生徒の情報】

- ・学年／年齢：高等部1年生／16歳
- ・障害名：知的障がいを伴う自閉スペクトラム障害
- ・困難の内容：以下の3点である。
  - ①行動問題について（場にそぐわない行動）
  - ②コミュニケーション方法について（表出手段に関する事／他者との関わりに関する事）
  - ③課題に対する実行機能について

## 【活動目的】

### （ア）当初のねらい（計画書の学習目標）

#### 【今年度の学習目標】

##### ①行動問題の置き換え

→集団での活動の際に、机を指先で弾いて電車の走行音を真似したり、電車のアナウンスや歌を歌ってしまうなど、場にそぐわない行動について、記録を取りながら行動の機能を探り、代替行動を獲得する。

##### ②コミュニケーション手段の獲得とモード替えする力の育成

→音声言語、文字盤の併用、ICT 機器の活用について、こちらが指示しなくても自分で伝わりやすい手段をモード替えし、周囲とやりとりできるようになる。それにより一歩通行ではない双方向のコミュニケーションを目指していきたい。

##### ③課題に対する実行機能の向上

→卒業後の就労を視野に入れ、スケジュール管理や作業におけるタスク管理、作業効率やペースメーカーとしてICT機器を活用していけるようにしていきたい。今年度の学習目標として、毎週火曜日に一日を通して取り組んでいる作業学習で毎回成果物の目標数と時間を設定し、記録を取っていく。

### （イ）活動を実施した期間

2022年5月～2023年2月

### （ウ）活動の実施者

藤原 佳美

### （エ）実施者と対象生徒との関係

クラス担任（国語、作業学習の授業担当）

# 【活動内容と対象生徒の変化】

## (ア) 対象生徒の事前の状況

<学習目標①行動問題について>

### ターゲット行動

対象生徒とは、中学部3年生の時に学年主任として関わり、本校の外部専門家と連携して、ABAの実践を行ってきた。まず行動問題としてのターゲット行動を設定し、年間を通して記録を取り、代替行動を模索してきた。ターゲット行動は、以下の内容である。

#### 《ターゲット行動》

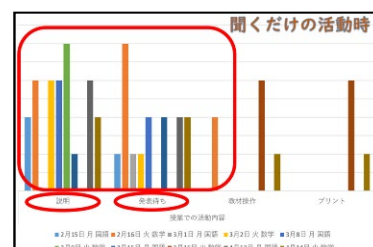
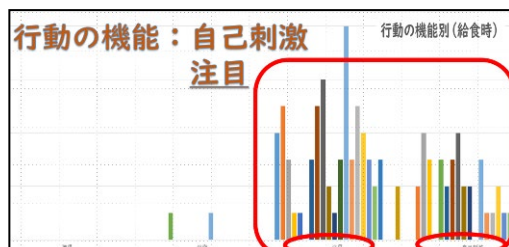
集団での活動の際に、電車の走行音を真似て指先で机を弾いたり、大好きな電車のアナウンスやお笑いのセリフ、歌などで大きな声を出してしまい、周囲から苦情が出たり教員に指導をされると更に大きな声になってしまう行動。

中学時代の記録を以下に述べる。このようなシートを作成し、年間を通して記録を取り続けた。

学年	月	日	行動	きっかけ				状況					
				本人	他者	物	音	場所	時間	状況	対応		
3-3-10	3月	10日	机を叩いて音を出す										
3-3-15	3月	15日	机を叩いて音を出す										
3-3-20	3月	20日	机を叩いて音を出す										
3-3-25	3月	25日	机を叩いて音を出す										
3-3-30	3月	30日	机を叩いて音を出す										
3-3-31	3月	31日	机を叩いて音を出す										
3-3-1	3月	1日	机を叩いて音を出す										
3-3-2	3月	2日	机を叩いて音を出す										
3-3-3	3月	3日	机を叩いて音を出す										
3-3-4	3月	4日	机を叩いて音を出す										
3-3-5	3月	5日	机を叩いて音を出す										
3-3-6	3月	6日	机を叩いて音を出す										
3-3-7	3月	7日	机を叩いて音を出す										
3-3-8	3月	8日	机を叩いて音を出す										
3-3-9	3月	9日	机を叩いて音を出す										
3-3-10	3月	10日	机を叩いて音を出す										
3-3-11	3月	11日	机を叩いて音を出す										
3-3-12	3月	12日	机を叩いて音を出す										
3-3-13	3月	13日	机を叩いて音を出す										
3-3-14	3月	14日	机を叩いて音を出す										
3-3-15	3月	15日	机を叩いて音を出す										
3-3-16	3月	16日	机を叩いて音を出す										
3-3-17	3月	17日	机を叩いて音を出す										
3-3-18	3月	18日	机を叩いて音を出す										
3-3-19	3月	19日	机を叩いて音を出す										
3-3-20	3月	20日	机を叩いて音を出す										
3-3-21	3月	21日	机を叩いて音を出す										
3-3-22	3月	22日	机を叩いて音を出す										
3-3-23	3月	23日	机を叩いて音を出す										
3-3-24	3月	24日	机を叩いて音を出す										
3-3-25	3月	25日	机を叩いて音を出す										
3-3-26	3月	26日	机を叩いて音を出す										
3-3-27	3月	27日	机を叩いて音を出す										
3-3-28	3月	28日	机を叩いて音を出す										
3-3-29	3月	29日	机を叩いて音を出す										
3-3-30	3月	30日	机を叩いて音を出す										
3-3-31	3月	31日	机を叩いて音を出す										

担任に協力してもらい  
データを取りグラフ化

その結果が以下のグラフである。



これによると、対象生徒の行動の機能は「自己刺激」に因るところが大きい。すべきことが明確でない時や、発表待ちや説明を聞くだけの活動の際に自己刺激行動が出現する。しかし、給食時の記録を見ると、行動の機能が「注目」のことが非常に多いことから、自己刺激だけではなく、周囲の仲間や教員への意識も高いことが分かる。

このターゲット行動について、私は代替行動を模索した。対象生徒は、文字に対して非常に興味・関心が深く、メモ帳や電子メモパッドなどを渡すと、すぐに鉄道名など身近なことばを書き、書けない漢字があると、「漢字！」と言って漢字を知りたがり、書きたがるが多かったことから、授業中にノートテイクをするという代替行動を実践してみた。

当初は教員が小さなホワイトボードにメモを取って対象生徒に見せ、対象生徒が自分のノートにそれを写すという流れであった。しかしながら、さまざまな授業で実践を重ねるうちに、30分程度であれば、動画や板書を見ながら、自分でメモができるようになり、授業中の机弾きや独り言、歌が激減した。写真1



写真1 [実践前] と [代替行動獲得後]

しかし高等部に入学して、大きな変化があった。中学部時代は、ほぼすべての授業が一緒であったが、高等部では教科担任制となり、生徒たちは時間割ごとに異なる教員のもとで指導を受ける。私は対象生徒のクラス担任ではあるが、一日を通して行動を追うことが難しくなり、ターゲット行動が再び頻発するようになってしまった。

<学習目標②コミュニケーション方法について>

ことばの表出について

対象生徒は、ひらがなとカタカナ、身近な漢字（小学1年生程度）はすべて読み書きすることができる。鉄道関係の言葉であれば、難しい駅名なども読み書きできる。そして、文字に対する知識欲が非常に高い。

また、400字程度の短い文章であれば、内容を理解し、質問に答えることもできる。しかしながら、相手に伝わる発声が難しい。本人は根気よく何度も発声を繰り返すが、伝わらないことが多い。せっかく「伝えたい」という気持ちがあるのに、このままでは伝えようという気持ちが減退してしまう可能性がある。

対象生徒との「コミュニケーション」を考えたとき、ことばの伝達手段として真っ先に作成したのが、文字盤である。当初はひらがな五十音だけの文字盤であったが、年号や電車の型番などで数字やアルファベットを追加し、更には対象生徒が普段の会話の中で頻発する鉄道に関する言葉も追加した。改良を重ねて現在使用しているのが以下の文字盤である。写真2

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ	A	B	C	D	E	F	G
を	り	み	ひ	に	ち	し	き	い		H	I	J	K	L	M	N
ん	る	ゆ	む	ぬ	つ	ず	く	う		O	P	Q	R	S	T	U
れ		め	へ	ね	て	せ	け	え		V	W	X	Y	Z		
ろ		よ	も	ほ	の	と	そ	お								
ー		や	ゆ	よ	っ											
---	特急	急行	快速	普通	駅	系	空	番号	JR	都営	京王	有楽	東武	西武		
9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	京浜	京成	相鉄	丸の内	丸の内		

これらの経緯から、彼からの自発的な発信については、音声でどうしても分からない時には、文字盤を使用してきた。文字盤は、学習時や着席に使用するためのA4サイズと、移動先などで持ち歩きやすいA5サイズ、カバンのポケットに入りやすい写真サイズのを準備したが、結局はA4サイズを使用することを好み、移動先ではA4サイズのものを半分に折ったものを使用している。

写真2 [文字盤]

双方向のコミュニケーションについて

学習や生活指導の中でのやりとりだけではなく、自分の気持ちや要求を伝える「コミュニケーション」では、信頼関係の構築が不可欠である。当初、対象生徒は担当のクラスではなかったこともあり、挨拶をしたり、話しかけても意識がこちらに向くことはほとんどなかった。そこで、ABAの実践をするにあたり、対象生徒と信頼関係を構築すべく、私はまず対象生徒に自分という人間を知ってもらい、信頼関係を築くことから始めた。

中学部では、毎朝20分程度の「社会性の時間」という自立活動の時間が帯で組み込まれていたため、その時間を利用して、彼に希望の鉄道をリクエストしてもらい、毎日リクエストの内容の鉄道プリントを作成して一緒に取り組んだ。写真3

月	日	曜日	路線名	印
12	29	金	山手線	
12	30	月	有楽町線	
1	1	火	有楽町線・有楽町線	
1	2	水	有楽町線	
1	3	木	有楽町線	
1	4	金	有楽町線	
1	5	土	有楽町線	
1	6	日	有楽町線	
1	7	月	有楽町線	
1	8	火	有楽町線	
1	9	水	有楽町線	
1	10	木	有楽町線	
1	11	金	有楽町線	
1	12	土	有楽町線	
1	13	日	有楽町線	
1	14	月	有楽町線	
1	15	火	有楽町線	
1	16	水	有楽町線	
1	17	木	有楽町線	
1	18	金	有楽町線	
1	19	土	有楽町線	
1	20	日	有楽町線	
1	21	月	有楽町線	
1	22	火	有楽町線	
1	23	水	有楽町線	
1	24	木	有楽町線	
1	25	金	有楽町線	
1	26	土	有楽町線	
1	27	日	有楽町線	
1	28	月	有楽町線	
1	29	火	有楽町線	
1	30	水	有楽町線	
1	31	木	有楽町線	



毎朝取り組むことで、対象生徒からの要求や作業などの活動における交渉にも応じる姿が多くみられるようになった。当初はプリントだけに向かい合ってこちらの声は届かないことは多かったが、少しずつ自分が音読した駅名を私が復唱し、書いた文字に丸付けを求める姿が見られるようになった。私はこの変化を社会性の向上であると捉えている。

写真3 [リクエスト] と [鉄道プリント]

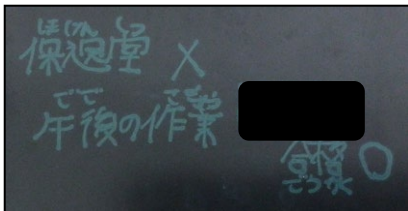
### 他者への意識や働きかけについて

このようなやりとりを1年以上かけて、少しずつ廊下などですれ違った時にも、対象生徒の方から「藤原先生」と声をかけてくるようになった。「藤原先生、京王線!」「藤原先生、湘南新宿ライン!」など、非常に一方的ではあるが、自分から相手に声をかける姿が非常に多く見られるようになった。

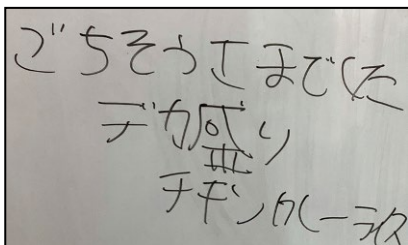
また、ラジオ体操などを行うときには、一生懸命大きな動きをしながら、「藤原先生!」と声を頻繁にかけ、「見えますよ!とても上手に手足が伸びてるね」などと声をかけると更に張り切って動き、「藤原先生!」を繰り返す姿が見られるようになった。

高等部に入り担任になってからは、移動などの際に「藤原先生、1980年!」「1980年!?じゃあ藤原先生は5歳だね」と言うときスクスと笑ってまた異なる年号を言うようになる姿が日常的に見られるようになった。また、小さなホワイトボードや電子メモパッドを持たせると、大好きな鉄道以外のメッセージ等も書くことが多くなった。

写真4



←作業学習の日に学校で微熱が出てしまい、保健室へ行くことに。「保健室へは行きたくないです。作業に行きたいです。」という気持ちの表現。



←たまたま給食のカレーとご飯が大量に余り、栄養士さんが教室を回って希望者におかわりを配ってくれた日。思う存分にカレーのおかわりができ、食後に小さなホワイトボードに書いていた。

写真4 [様々なメッセージ]

### <学習目標③課題に対する実行機能の向上について>

ここでは、対象生徒の各種課題に対する実行機能について述べる。

#### 給食について

当初の対象生徒は、給食を3分程度で飲み込むように食べ、おかわりを要求するというのが日常であった。そこで、iPadのアプリ「絵タイマー」を使用した。対象生徒が自分でおかわり分の給食を撮影し、10分間設定して食べる練習を始めた。それでも最初はすぐに食べ終わって落ち着かない様子であったが、毎日継続して行うことで、10分以上かけてゆっくりと食事をするようになった。

#### 歯磨きについて

食後に歯を磨くという習慣は身につけていたが、磨く時間は全部で10秒程度であった。ほとんど磨けていない状態で終わっていたため、担任が仕上げ磨きをしていた。そこで、iPadのアプリ「歯磨き勇者」を使用したところ、ゲームを楽しみながら上下左右に歯磨きを動かして3分以上かけて歯を磨く習慣が身についた。

#### スケジュールについて

対象生徒について、登校後、校内着に着替えてから朝の会までの間に、まずは鉄道プリントをして一緒に活動し、その後は身だしなみの課題として、鏡を見て自分の寝ぐせを治すことと、水分摂取をスケジュールに入れていた。登校後にすぐにiPadを使用することは難しいため、これはスケジュールブックを作成して実践した。写真5

当初はやみくもに襟足からすべての髪を前にとかしつけるような動きをしていたが、男性教員と一緒に何度か手順を確認することで、今では自ら寝ぐせのある場所に水スプレーをふきかけてブラシを通せるようになった。



写真5 [スケジュールブック] [鏡を見ながら寝ぐせを直している。]

#### 作業学習について

本校高等部の作業学習で、対象生徒はクラフト班に所属している。クラフト班では、校内で出るプリントの裏面を利用してメモ帳づくりをしている。

作業工程は、①A4プリントの裁断→②「再利用」のはんこ押し→③計量→④ボンドという4工程であるが、対象生徒は手先が器用なため、すべての工程で活躍することが期待できる。

しかしながら、作業に集中できる時間が短く、すぐに携帯してきた地図本や窓の外に見える京王線を眺めるために離席を繰り返す姿が多く見られる。

地図本の携帯については、中学部時代も同じく心の安定には欠かせないグッズなので携帯を許可している。中学部では切り替えができていたが高等部では教科担任制というのもあり、常に担任が近くにいるわけではないので、いつの間にか切り替えが難しくなり、授業中も地図本を開く姿が多く見られるようになった。

## (イ) 活動の具体的内容



高等部に進学して最大の変化は指導体制であった。中学部時代は教科ごとに多少の変化はあるものの、基本的には担任はクラスの生徒のほぼすべての授業に参加していた。しかしながら高等部では教科担任制になり、生徒たちは朝の会終了後には、様々な教室で異なる教員の授業を受ける。朝送り出して、次に会うのは給食時という曜日もある。

私自身が中学部の教員経験しかなく、今年度が人生初の高等部であり、このシステムに慣れるまでにはかなりの時間を要した。生徒たちにとってもこの変化は非常に影響が大きく、1学期は不安定になり、さまざまな行動問題が起きた。対象生徒も例外ではなく、中学部時代に積み上げたものが一度リセットされてしまったような印象もある。そのため、活動の具体的内容については、中学部時代に積み上げてきたことの継続と共に新しい試みについて述べていく。

### <学習目標①行動問題について>

行動問題については、中学部時代の ABA の実践で激減したが、高等部での教科担任制で、一貫した指導が難しくなり崩れてしまった。環境設定が難しいためである。しかし生徒たちの将来のことを考えると、常にキーパーソンが近くにいる見守れる環境というのはなかなかあり得ないことであり、やはり高等部のこのシステムの中でも、自分で行動を切り替える力を身につける必要があるという考えに至った。

対象生徒の場合、すでに中学部時代に置き換え行動が成功し、望ましい行動に変化できたという経験があるので、高等部のこの状況でも望ましい行動を覚え、自分で切り替えられるようにしていきたいと考えた。

使用したもの	活動内容（時間帯や頻度含む）
<p>iPad のアプリ</p>  <p>[TwiMemo]</p>	<p>使用頻度：藤原も参加可能な授業で使用。</p> <p>本来であればすべての授業で使用したいところだが、教科担任制の高等部では引継ぎなどが難しい。そのため、教材研究の時間などには対象生徒の授業と一緒に参加させてもらい、実践を続けてきた。</p> <p>使用方法：授業のめあてや流れ、板書の文字をノートテイクがわりにこのアプリに書き込んだ。ノートテイクをしている間は、行動問題の発生は大幅に激減した。しかし、集中できる時間はまだ15分程度であり、教員の言葉かけがないと行動問題が発生してしまうというのが現状である。（令和4年9月現在）</p>
<p>iPad のアプリ</p>  <p>[Microsoft Whiteboard]</p>	<p>使用頻度：毎週水・木・金のグループ国語の授業で使用。</p> <p>使用方法：国語の教材の中に、「ソーシャル・ストーリー」等を組み込んで、集団の中での望ましい行動を学習。内容に沿ったワークシートを PDF で作成し、生徒がこのアプリを用いて開いて回答する。教員は自分の端末から全員の進捗具合を把握し、画面上で丸付けやコメントを書くと生徒の端末にも反映される。記録は画像ファイルとして保存される。</p>

<学習目標②コミュニケーション方法について>

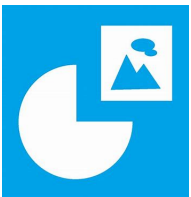

対象生徒は、「伝えたい」という意欲が非常に高い生徒である。文脈に沿った言葉の場合もまれにあるが、大抵は、鉄道関係や年号の単語などについてである。しかしながら、他者へ関わろうとする姿勢がほとんどなかった当初の対象生徒と比べたら、これらはコミュニケーション能力における大きな発展であると私は捉えている。ゆえに私は、できるだけ対象生徒からの自発的な発声を受け取り、レスポンスしていくことを心掛けていく。最初は小さなつぶやきだったものが、今現在では、「藤原先生、～（鉄道関係や年号の単語）」になり、まれに文脈に沿った表現も見られるようになっていく。対象生徒の「伝えたい」を実現するさまざまな選択肢を提示していきたい。

使用したもの	活動内容（時間帯や頻度含む）
<p>文字盤</p> 	<p>使用頻度：必要に応じて</p> <p>使用方法：音声言語で伝わらない時に、「これ使って」と手渡すと発声しながら指さしをする。</p> <p>普段は自分から文字盤を持ち出すことはない。根気よく音声で伝えようとする姿が見られるが、どうしても伝わらない時に文字盤を提示すると、すぐに指さしをして正確に伝えてくる。今後の実践の中で、必要に応じて文字盤、iPad、音声と自分でモード替えてできるようになるとよい。</p>
<p>電子メモ PAD</p> 	<p>使用頻度：日常的に使用。</p> <p>教室間移動の際に持ち歩く！日分の授業ファイルを入れるバッグに入れて持ち歩き、休み時間等に使用。</p> <p>使用方法：廊下での待機時間などでもこのメモ PAD に鉄道名や駅名を書き込むことで落ち着いて静かに待っていることができた。また、何か質問等がある時に口頭でなかなか伝わらない時に、直接書き込んで相手に提示することもあった。今のところ、自主的にモード替えの選択ができる唯一のツールである。</p>
<p>iPad のアプリ</p>  <p>[Keynote]</p>	<p>使用頻度：毎週水・木・金のグループ国語の授業で使用。</p> <p>使用方法：国語の教材の中に、文を作成する活動を毎回取り込み、語彙や文法の練習を行った。</p> <p>内容に沿ったワークシートはエアドロップで生徒の端末に送信して、PDF ファイルに書き込む形式で授業を行った。</p> <p>視覚教材を使用することで、学習に対する意欲も向上し、立ち歩きなどは激減した。</p>
<p>ノートや付箋</p> 	<p>使用頻度：電子メモ PAD や iPad を使用できない場面で言葉の指示だけでは意識に入りづらい時に使用した。</p> <p>使用方法：イラスト等を使用して、音声を可視化することで伝わるのが非常に多くあった。また、付箋紙を通して要求らしきメッセージを書く姿も見られる。</p>

<p>iPad のアプリ</p>  <p>[memo]</p>	<p>使用頻度：日常的に</p> <p>使用方法：活動の交渉時や指示を出す時に文字や映像を組み込んで使用。時々連想ゲームのように、関連する単語を羅列する姿も多く見られる。さまざまなことばに対する知識欲が非常に高く、ことばの広がりをも自分自身でも楽しんでいるように見える。</p>
<p>iPad のアプリ</p>  <p>[YouTube]</p>	<p>使用頻度：余暇</p> <p>使用方法：休み時間や課題の達成時のご褒美として。大好きな京王線の発着シーン等を繰り返し見ている。一時期、彼の生活する施設でよく放送されているバラエティ番組を検索することもあったが、夏休みが明けの9月にはまた鉄道関係の動画ばかりを見るようになった。</p>
<p>iPad のアプリ</p>  <p>[map]</p>	<p>使用頻度：余暇</p> <p>使用方法：休み時間や課題の達成時のご褒美として。「今どこですか？」と聞くと、画面の地図を指さしながら「分倍河原駅」などとやりとりが成立する。</p> <p>自分から、「藤原先生、スシロー」などと、地図上で見えたものを報告してくることも増えた。対象生徒が最も好んで使用するアプリである。地図上でトンネルや川、各種施設を見つけると、「くらい」「魚」「水、きれい」などと関連する形容詞などを口にする姿も多く見られるようになった。</p>

<学習目標③課題に対する実行機能の向上について>

課題に対する実行機能については、給食をゆっくり食べる、歯磨きをする、スケジュールに沿って行動する、作業学習等で自分の担当している作業を行うなど、対象生徒がすべきことへの自発性を調査したものである。

使用したもの	活動内容（時間帯や頻度含む）
<p>絵タイマー</p>   <p>[絵タイマー]</p>	<p>使用頻度：給食を食べる際のペースメーカーとして。</p> <p>使用方法：自分で給食のおかわり分を撮影してから給食を食べる。10分かけて食事をする。</p> <p>当初は流し込むような食べ方であったが、このアプリを使用してからは、10分以上かけて食事ができるようになった。</p>



<p>iPad のアプリ</p>  <p>[歯磨き勇者]</p>	<p>使用頻度：毎日給食後に使用</p> <p>使用方法：食器の下膳後に自ら起動して歯磨きを行った。磨けば磨くほど得点が高くなるので、楽しみながら取り組んでいた。同じ場所ばかりだと得点が変わらないため、上下左右に歯ブラシを動かして取り組んでいた。</p>
<p>iPad のアプリ</p>  <p>[作業アプリ]</p>	<p>使用頻度：毎週火曜日に一日を通して作業学習で使用。</p> <p>使用方法：担当する作業の工程と目標数を教員と一緒に設定し、自分でカウントしながら目標数をクリアできるように取り組んだ。カウントのアイコンは対象生徒の大好きな京王線にして、京王線が時間内に～個並んだら iPad で大好きな動画が見られるという約束で作業に取り組んだ。</p> 
<p>iPad のアプリ</p>  <p>[タイマー]</p>	<p>使用頻度：作業学習時</p> <p>使用方法：作業アプリと同時に併用。</p> <p>給食時や作業学習で使用。上記の作業アプリと同じくらいの頻度で対象生徒自らセットしてよく利用している。アラーム音の選択がたかさんできるという点が入っている様子である。</p>
<p>iPad のアプリ</p>  <p>[たすくスケジュール]</p>	<p>使用頻度：日常的にスケジュールの確認で使用。</p> <p>使用方法：朝の課題はスケジュールブックで行い、各授業の流れや動きの確認で使用。</p>

## (ウ) 対象生徒の事後の変化

### <学習目標①行動問題について>

高等部に入り、生徒の人数も倍近く増えた中で、様々な刺激があり、中学部時代に一度は激減したターゲット行動が再発していたが、やはり「書く」という行動は、対象生徒の行動問題の代替行動になりつつある。思春期を迎え、異性への興味・関心も育ってきたため、気になる女生徒がいると、彼女の方を見ながら大きな声を出したり机を弾いたりする行動が多く見られるが、日常的にノートテイクを促すことで、行動問題が少しずつ減りつつある。

### <学習目標②コミュニケーション方法について>

ことばの表出及び双方向のコミュニケーションについては、非常に印象深いエピソードがある。まだ午前中であったが、彼だけ急遽下校しなければいけなくなった日があった。突然の予定変更は対象生徒にとっては大きなストレスであり、不安定になってしまうことは覚悟していたが、前述のTASUCスケジュールアプリと付箋紙を使って下校の旨を伝えた時に、彼はまず「いらない！」と大きな声で拒絶を示した。しかし下校はもう決定しており、「お迎えのバスが11時に来るから集合場所に行こうね」と伝えた時に、初めて自分から文字盤をひっぱりだして、「こくご、あり」と伝え、何度も「ごめんなさい」と伝え「げこう、3じ25ふん」と続けて伝えてきた。

この表出は、

- 「いらない！」 → 「いやだよ。帰りたくないよ」
- 「こくご、あり」 → 「(このまま) 国語の授業に出る。」
- 「ごめんなさい」を繰り返す → 混乱してとにかく謝っている。「学校に連絡が来て、急に決まったことなんだよ。だから謝らなくていいのよ。」と説明するも、「ごめんなさい」をなんども指さして伝えてくる。これは今までの経験で「ごめんなさい」の使い方を誤学習していることが分かった。
- 「げこう、3じ25ふん」 → 毎日の下校時間が3時25分なので、「僕はいつもの下校便で帰るんだ。」

ということである。

文字盤を自分から使ってここまで表現ができたことに私は非常に驚いた。結局は最後まで早退を受け入れることは難しく、両脇を抱えるようにしてお迎えの集合場所まで連れていかれた対象生徒ではあったが、私はこれが彼の非常に大きな変化であったと考えている。

コミュニケーションの方法の変化について述べる。

当初は好きなクラスメートや気になる子に対して、「あの～」とだけ言って無言で距離を詰めて困惑されることが多かった対象生徒であるが、何度も言葉かけや付箋紙で練習を繰り返したところ、「あの～」の後に、朝であれば「おはようございます。」、初めての人であれば、「初めまして、僕は～です。よろしくお願いします。」と伝えてその場を離れるということが、ちょっと促されることでできるようになりつつある。しかし、まだまだ教員からのプロンプトが必要不可欠な状態である。

<学習目標③課題に対する実行機能の向上について>

作業アプリなどを用いて、iPad をペースメーカーにして課題や作業学習に向かうことができるようになったが、一点新しい問題も発生してしまった。

iPad のアプリを使用している作業中、作業に飽きたりした時に、教員が見ていない隙に動画を見てしまうことがあった。そのため、アクセスガイドを設定して対応していたのだが、対象生徒は解除に必要なパスワードが分からない時には強制終了をすることで解決するというを経験から学んでしまったのである。

「なるほど！すごいなあ」と私は思わず感心してしまった。しかし、感心してばかりもいられないので、今後対応策を模索していく必要がある。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### 主観的気づき

#### ①「行動問題の置き換え」について

行動問題に対して、その行動の機能を「獲得」「逃避」「注目」「自己刺激」に分類して日々記録することで、対象生徒の行動の性質や傾向を把握することができた。また、対象生徒の文字への興味を活かしてノートテイクを代替行動に設定したことは、非常に有効であった。ノートテイクについては、中学部3年生の一年間で獲得した代替行動ではあったが、高等部での「教科担任制」の環境の中で、もう一度最初から丁寧に積み上げる必要があった。この経験を通して、生徒にとってノートテイクを行う環境の構造化と、できるだけ一貫した指導体制が必要であることが分かった。これは教科担任制の高等部における課題でもあると私は考える。

#### ②「コミュニケーション手段の獲得とモード替えする力の育成」について

この実践を通して、一番変化を感じた内容である。当初は、相手に伝わるまで、何度も音声言語で伝えようとしていた生徒であったが、発音に難しさがあるため、伝わらないことも多かった。そんな時は、文字盤や付箋紙を渡すことで、書いて伝えてくることもあったが、それを自発的に切り替えて行うことはなかった。しかし、この実践を通して、メモに書いて伝える、iPad のメモ機能に入力して伝える、電子メモパッドに書いて伝えるというモード替えを自分で行うことができる瞬間が増えた。「伝える」手段について、生徒との日々のやりとりの中で、機会を的確にとらえ、最適なものを提示し、成功体験を積み上げることを繰り返し取り組んできたことで、自らツールを選択して伝えられるようになりつつあるのだと感じた。今後も継続して取り組んでいきたい。

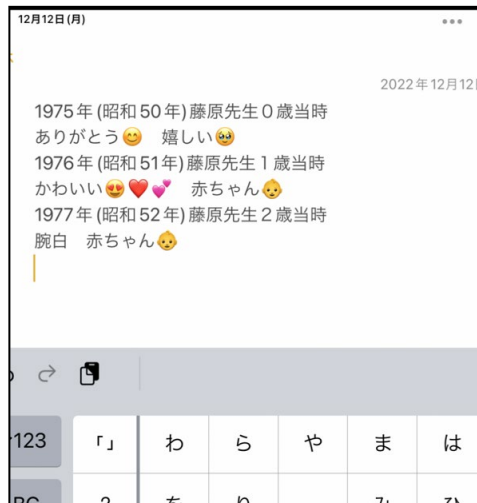
#### ③「課題に対する実行機能の向上」について

課題や作業に取り組む際に、対象生徒にとっては「時間の可視化」が非常に重要なのだと実感した。教室内に時計はあるのだが、iPad のタイマー機能を使用して、作業時間や課題時間をカウントダウンすることで、その後の余暇を励みにがんばれるということが分かった。

## エピソード

### ①「行動問題の置き換え」について

ノートテイクが習慣になりつつある対象生徒であるが、授業の内容だけではなく、鉄道や天気、食べ物やゲームなど、自分の好きなものについても入力することが多い対象生徒について、授業とは関係のない内容を入力することに疑問をもつ先生方もいるが、大きな声で歌ったり独り言を言う行動を、社会的に許容される行動に変換できたと私は考えている。**写真⑥**



[写真⑥]

年号にも強い興味を持つ対象生徒。以前私が、1975年（昭和50年生まれ）だと伝えたと、覚えており、突然入力を始めた。

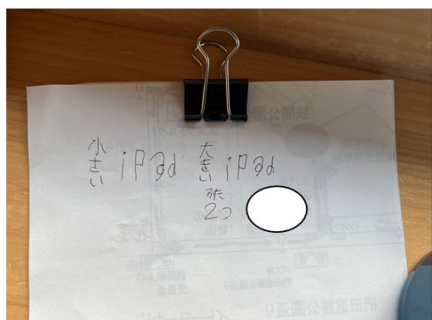
ありがとう／うれしい／かわいい／赤ちゃん／腕白は、私がその場でコメントした内容である。対象生徒はそれを聞いて、ケラケラ笑い、とても楽しそうに入力し、絵文字は自分で選んで入力した。

行動問題の置き換えを通して、他者への興味・関心の育ちと、内容に応じた絵文字の選択（表情の理解）ができるということが分かった。

### ②「コミュニケーション手段の獲得とモード替えする力の育成」について

#### エピソード1

対象生徒は普段から、2台の端末を使用している。（一人一台持っているギガ端末（iPad）と魔法のプロジェクトで使用しているiPad mini）私が出張で一日不在だった日に、最初は音声言語でその日に授業を担当した教員に伝えていたのだが、なかなか伝わらなかった。そこで、メモの切れ端に自ら文字を綴って伝えたのである。**写真⑦**

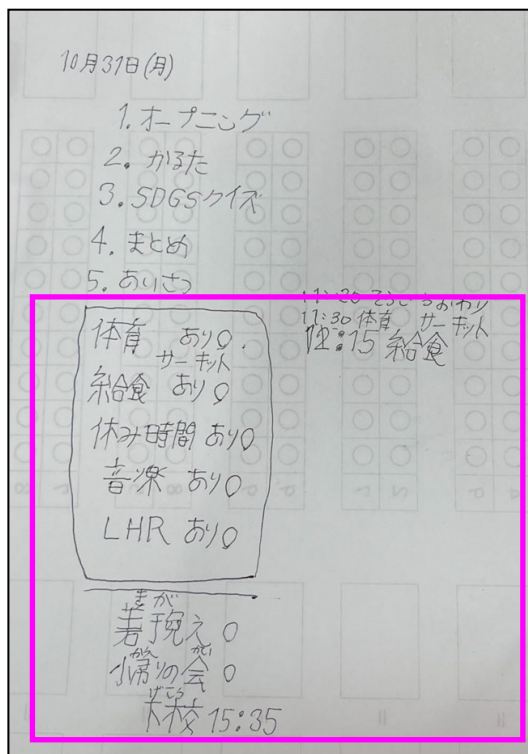


[写真⑦]

驚いたのは、「小さい／大きい」という形容詞を使用していることと、数をしっかり伝えていることである。以前であれば「iPad」のみであったが、これは担当させてもらっている国語の授業での積み上げも大きく影響していると実感している。

#### エピソード2

感染症対策で急遽下校が決まった時に、その旨を対象生徒に伝えた。以前であれば「いかない！」を連発し、なかなか受け入れることが難しかったが、授業の流れをメモした紙に、下校しなければ受けるはずの授業や給食、下校時間等を書いて渡してきた。**写真⑧**



[写真⑧]

拒絶や否定の言葉は、すべて「いない！」だった対象生徒が、“学校にいたい”“まだ帰りたくない”という表現までには至らなかったが、「あり」という言葉を使用して、気持ちを伝えることができた。そこで私も、

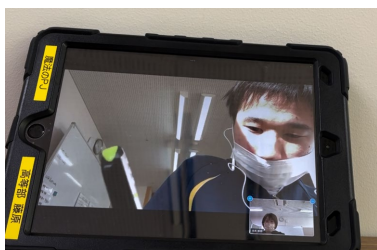
「そうだよね。帰りたくないよね。でも下校は決まっているから、持ち帰る鉄道本を選んで支度しよう。」というやりとりができた。

「対象生徒の事後の変化」でも似たようなエピソードを記述したが、その時は文字盤で今回は書字である。そして、今回は受け入れることが難しく、両脇を抱えられるようにして集合場所に向かったが、今回は持ち帰る本を一緒に選んで集合場所にも一緒に歩いて行けた。

この出来事を通して、自分の感情を伝えるという行動には、自分の行動をコントロールする力があるのだと知った。最終的には、「まだ学校にいたい」や「まだ帰りたくない」という表現につなげていきたい。

### ICTの役割

ICTの役割は情報収集や教材の作成だけではなく、ゲームアプリや動画視聴などによる余暇活動、オンライン授業で使用すればコミュニケーションツールに写真⑨ また、タイマーアプリなどを使用すれば、課題活動でのペースメーカーとしての役割も果たすことができる。生徒自身の成長に合わせて臨機応変に修正できるという利点もある。例えばカメラアプリを使用して、自由に写真を撮らせてみると、生徒のしている世界だけではなく、生徒が作り出すイメージに驚かされることもある。写真⑩ 教材作成は教員の自己満足で終わってしまったら意味がない。日々成長する生徒に合わせて簡単にマイナーチェンジすることを可能とし、記録として画像や映像のデータを積み重ねていけることがICTの役割であると私は考える。



[写真⑨]

オンライン授業を通して、対象生徒の目の動きや反応も普段よりも凝縮して見ることができる。一つの課題について、生徒のもつ豊かな内言語や感性を知ることができた。普段の一斉授業よりも、教材を注視したり、教員からの問いかけに応じる姿が見られた。



[写真⑩]

この1年の間に、鉄道だけではなく、情報番組やゲーム、日産の車にも興味の幅が広がった。休み時間にお気に入りの日産の車を2台並べてさまざまなアングルで写真を撮っていた。

また、インターネットで好きな電車や車、地図の写真を検索して、保存し、それを休み時間などに眺める姿も多く見られた。

自らICTを活用することで、余暇活動の幅も広がったと言える。

#### 今後に向けて

この実践の最も大きな成果は、“コミュニケーション力の向上”である。「対象生徒の事後の変化」やエピソード2でも述べた通り、対象生徒は、当初、突然の予定変更などにも順応することが難しく、「いらない！」という言葉だけで拒否や否定の感情を表現していたが、電子メモパッドに書く、文字盤で伝える、紙に書いて伝える、iPadのメモアプリを起動して伝えるなど、表現の「モード替え」を自ら臨機応変に選択できるようになった。また、「伝わる」経験を重ねることで、更に発信が増えたり、自分の行動を調整できる瞬間も増えてきた。

また一方で、今後の課題も明確になった。「行動問題の置き換え」については、ノートテイクの内容について、もっと明確な基準を設け、関わる教員と情報を共有していく必要がある。今後も実践を続けていきたい。「教科担任制だから難しい」ではなく、教科担任制というシステムの中で、対象生徒に必要な構造化や支援を、「どうつないでいくか」を考え、試行錯誤していきたい。

対象生徒は4月から高等部2年生である。現場実習も本格的に始まり、将来へのイメージが具体的になってくる。今後も継続して実践を積むことで、コミュニケーション力を伸ばし、学校内外で般化できるとよい。そして、可能であれば卒業までの2年間、魔法のプロジェクトを通して対象生徒の成長を記録していきたい。